

令和2年公認会計士試験（論文式）

祝！ 公認会計士試験 合格



谷口 修 PwC京都監査法人（内定）
（天理南中学校出身）

私は、小5の頃にサッカーを途中で辞めてしまったことが悔しくて、「二度と途中で諦めない」と誓って、奈良情報商業高校に入学しました。簿記部の先生に誘われ、初めは簿記3級から教えていただき「簿記って面白いな」と感じました。そして、1年生の11月に日商簿記検定2級に合格することができ、続いて、高2の2月に全経簿記上級にも合格することができました。この合格で専門学校の入学金と授業料が免除になるということもあり、学校帰りの最寄り駅に着いたとき、誰もいないところで思わずガッツポーズをしたほど嬉しかったことを覚えています。

その後、高3の6月に日商簿記1級にも合格できました。これは、簿記の中では最難関資格であり、奈良情報商業では「在学中での合格は初」ということもあり大きな達成感がありました。

大阪IT会計専門学校に入学後、公認会計士試験に本格的に取り組みました。内容は日商簿記でやっていた頃より奥が深く難解で、企業法や監査論といった理論科目も点数を取れるまで時間がかかりました。結局、2度の失敗を乗り越え、3年の5月(2016年)に短答式試験に合格することができたのですが、その時、体の不調を感じており、病院へ行くと難病を2つ患っていることが発覚しました。この治療には時間を要し、手術も行いながら何とか克服することができましたが、治療の間、勉強も止まってしまい、一からのやり直しになってしまいました。このような経緯があり、合格するまでに長い時間がかかってしまいました。なので、合格発表の日に自分の受験番号を見つけたときは「嬉しい」と言うより「ほっとした」という感じでした。しかし、ここまで頑張れたのは忘れもしない「サッカーでのマイナスの経験」が生きたのだと思っています。これからも「何が起こっても決して諦めることなく」次の夢に向かっていこうと思います。



井本 悠輝 太陽有限責任監査法人（内定）
（榛原中学校出身）

私はバレーボールが大好きで、中学の3年間はバレーばかりしていました。勉強不足だったこともあり、高校は普通科ではなく資格や検定が取れる商業高校を選びました。高校に入ってもバレー部に所属し、バレーに明け暮れていた私ですが、高2になり簿記の上位級を学ぶにつれ、日商簿記1級という「簿記の最高峰」に憧れを抱くようになりました。長く長く考えた末、9月に「苦渋の決断」をしました。バレー部を辞めて簿記部に転部したのです。その後は、顧問の先生曰く「破竹の勢い」で、11月に日商簿記2級、2月に全経簿記上級、3年生の6月に日商簿記1級に合格することが

できました。自信をもって進学した大阪IT会計専門学校(会計士コース)でしたが、今思えば「間違いノート」の作成が甘く、二次試験(論文式)に奈情商の同級生が2年生・3年生で合格していくなか、私は専門4年生での合格となってしまいました。しかしよく考えれば、中学の同級生が大学を卒業する年に、私は公認会計士として監査法人に就職できるのですから「苦渋の決断」は正解だったと思います。私は奈情商のバレー部にも簿記部にも感謝しています。本当に多くの事を学ぶ事ができたからです。奈情商は私の人生を変えてくれた学校です。本当にありがとうございました。